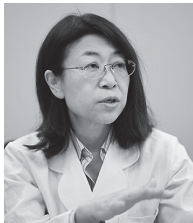
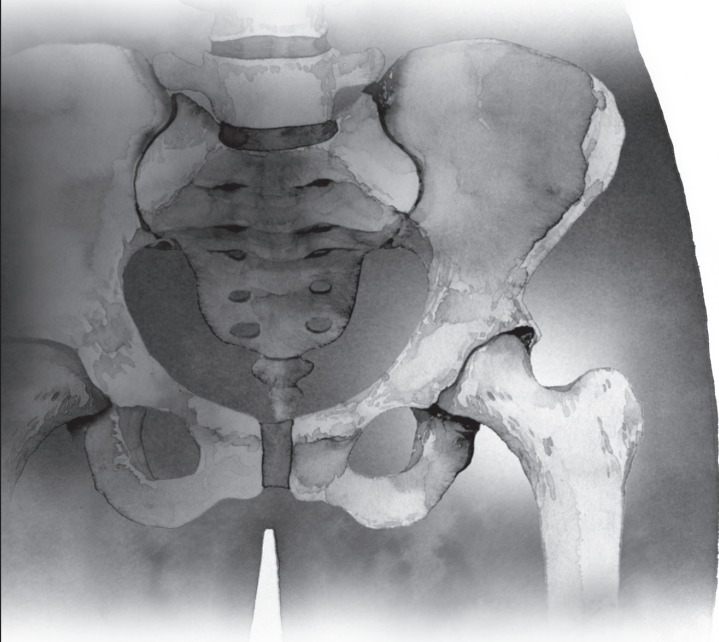


※イラストはイメージです。



Special Interview

玉置 淳子 教授  
大阪医科大学[衛生学・公衆衛生学I-II教室]

たまき・じゅんこ 1987年北海道大学医学部卒、97年米  
ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生学修士課程修了。2000  
年和歌山県立医科大学公衆衛生学助手、01年北海道  
大学予防医学講座公衆衛生学助手。03年近畿大学医  
学部公衆衛生学講師、10年同准教授。13年から現職。

# 骨粗しょう症予防へ正確な根拠求める

大阪医科大学の衛生学・公衆衛生学教室の玉置淳子教授は、高齢者に多い骨粗しょう症の研究をしている。求めるのは人や組織を動かすために必要なエビデンス(科学的根拠)。その積み重ねこそが、健康な社会を実現する原動力になると信じている。

## 自覚症状出にくく 低い検診への関心 危機感が研究の力

「骨粗しょう症の問題点は、自覚症状がほとんど無いせいに関心が薄く、検診を受けて予防しようという意識が極めて低いことです」。玉置は端的に指摘する。

骨密度は加齢とともに低下するが、それが進行した状態が骨粗しょう症だ。一般的には男性より女性に多く、高齢者ほど罹患リスクが高いとされる。骨がもろくなるので、ちよつとつまづいた程度でも骨折しやすくなる。骨粗しょう症による骨折は部位によっては骨折後、介護が必要になるなど生活の質(QOL)低下を招く可能性がある。

そこで、大もの付け根の骨折(大腿骨近位部骨折)の実態調査に骨粗鬆症財団WGメンバーとして乗り出した。活用したのは、ほぼ100%電子化されたレセプト(診療報酬明細書)の記録だ。高齢の骨粗しょう症患者に起こりやすく、骨折後のQOL低下が懸念される大腿骨近位部骨折の、各都道府県での発生頻度を調査した。

ことが明らかになった。地域によつて、納豆など伝統的に好まれる食べ物などには違いがある。「食生活が関連している可能性がありそうです」と玉置は分析する。

骨粗しょう症を誘発する要因としては、やせ型の体格、喫煙、多量飲酒やビタミン不足をはじめとする栄養の偏りなど様々な要因が関与していると考えられる。玉置は10年以上にわたつて、骨粗しょう症を誘発する要因を研究してきた。糖尿病や動脈硬化、慢性閉塞性肺疾患の患者が、骨粗しょう症を併発しやすいことが指摘されているという。「成長期の運動習慣の有無も関係していると思います」とあつては、特定の「原因を絞り込むのは無理な話だろう」。

## 社会を動かすため 研究によつて明確な 根拠を提示したい

それでも玉置がきめ細かい研究を続けるのは、「自分などの程度の発症リスクがあるのかを把握してもらうには、根拠を提示することが必要」という信念があるからだ。自治体を実施する骨粗しょう症検診の受診率は低く、全国平均で約5%程度にとどまるという。これでは予

防や早期発見による十分な治療効果は期待できない。とはいえ、現状のままでは受診率を大幅に引き上げるのが難しいのも確かだろう。

「対象者すべてが骨量測定の検診を受けなくても、骨粗しょう症による骨折リスクをメタボ健診などの機会に骨折リスク評価ツールFRAAX®で算出し、骨折する可能性が高い人に骨密度測定の受診を促す仕組みをつくる。そのためのエビデンスを提示できれば、一歩前進です」。それにはどの程度を骨折リスクが高いとするか明確な基準(カットオフ値)が必要であり、その線引きには質の高い追跡研究の継続が不可欠だ。

玉置の研究対象は幅広い。口の中の機能・衛生状態と疾患の関係など、地域の健康増進につながるテーマなどに積極的に関与している。

「納得できる情報や根拠を発信することが、健康意識の向上と施策、行政が動く引き金の一つとなる。その土台をつくるのが、疫学研究の役割の一つだと思います」。眼前の数字を眺めているだけでは見えてこない現実もある。しかし将来、別の視点から新たな発見が生まれるかもしれない。そう信じて、研究を積み重ねている。

www.omp.ac.jp

法人広報室 / TEL: 072-684-6817

過去の連載記事は上記サイトに掲載

大阪医科大学(医学部・看護学部) 〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号 / TEL: 072-683-1221(代表)

大阪薬科大学(薬学部) 〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号 / TEL: 072-690-1000(代表)

高槻中学校・高等学校 〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2番5号 / TEL: 072-671-0001(代表)

学校法人 大阪医科薬科大学

Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

Frontline  
Medical Care